被災看護師への支援活動

（小原真理子、災害人道医療支援会ほか・編　グローバル災害看護マニュアル、東京、真興交易医書出版、2007、p.243-252）　2011/11-10

大災害により甚大な被害が発生した場合、発災直後からの緊急支援が重要であるが、緊急対応時期を過ぎた後の中長期的なケアも重要である。活動する際にはあらかじめ被災地において調査を行う必要があり、特に環境の悪化による衛生・栄養状態の問題は難民の健康に重大な影響を与えかねないため調査は大きな意味を持つ。時期的にみると急性期の迅速調査と中長期的な支援活動を計画立案するための調査に大別される。一方どこの被災地でも過酷な状況で救護活動に取り組む被災看護師に対する支援も重要なものと考えられる。

よってここではまず、急性期の迅速調査に触れ、国際救援上被災看護師に対する中長期の支援活動を行うために実施された調査の実際について 2 つの事例に即して解説していく。

急性期の迅速調査とは災害直後の急性期の援助内容に優先度をつけるための調査である。事前準備として調査活動の目的、項目の明確化、現地カウンターパートの把握、第 1 段階現地調査先との連絡調整が必要である。調査方法は被災地や避難地域の現状調査を行い、緊急ニーズは何かを探ることであるため調査票やチェックリストを作成し、これに基づきインタビューなどの映像記録を行っていく。さらに被災地の背景の把握し、アセスメントを早く行い、対策を立案することなどが必要である。調査項目としては背景、食糧、健康、栄養、水、トイレ、住居とその機能、ロジスティックとセキリュティである。

中長期的な支援活動のための調査としてはまずニーズの調査が必要であり、ニーズを把握した上での援助内容の検討が必要である。アセスメントの視点は現地看護師のニーズ、最適なカウンターパートの同定、どのような協力、支援が必要か、またそれが可能かであり、調査方法は迅速調査とほぼ同様であるが、被災地及び避難地の衛生環境が改善方向なのか悪化方向なのかは疾病構造が変化するため重要である。

1 つ目の事例としてイラン南東部の地震被災地(マグニチュード 6.3、総死者数約 43200 人)における被災看護師の支援調査活動があり、被災後 3 カ月を経過した被災地の状況と看護師の被災状況、生活環境を調査した後に中長期的看護ニーズを明らかにし、それに対する支援内容を検討することにした。さらに被災看護師を取り巻く現状と問題点の分析結果からストレス要因をまとめた。このストレス要因と看護師のニーズの優先度から筆者らは 3 カ月以上のテント生活の困難さ故、看護師が十分休息できないといった点に着目し、看護師の生活の立て直しに対する援助活動を検討した。

2 つ目の事例はスマトラ沖地震・インド洋津波被災地(マグニチュード 9.0、死亡者 126431 人)インドネシア共和国パンダアチェにおける被災看護師の支援調査活動があり、こちらは被災看護師を取り巻く状況と問題点の分析の結果、心のケアの必要性などの問題点が分析され、またインドネシア看護協会からは活動拠点の事務所が破壊され、NGO の経済支援により事務所を借りて運営していることから今後の運営費、人材育成費が必要であると分析された。結果具体的な支援内容としては事務所運営支援、バンダアチェの国立病院の看護師へのユニフォーム支給、人材育成などの活動を行うといったものであった。いずれにせよ調査時には様々な配慮が必要であり、事前準備が不可欠であることを忘れてはいけない。